【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成23年1月27日(2011.1.27)

【公表番号】特表2010-510975(P2010-510975A)
【公表日】平成22年4月8日(2010.4.8)
【年通号数】公開・登録公報2010-014
【出願番号】特願2009-537660(P2009-537660)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｄ 319/12 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｄ 319/12

【手続補正書】
【提出日】平成22年11月29日(2010.11.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
安定なラクチド粒子を製造する方法であって、溶融したラクチドの連続流と該ラクチドの融点より低い温度を有する表面とを接触させること、該溶融したラクチドが該表面で凝固することを許すこと、及び次にその表面からラクチド粒子として該固体ラクチドを取り除くことを含む上記方法。
【請求項２】
該表面が、外部的又は内部的手段により冷却される、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
該取り除くことが、該凝固したラクチドを有する該表面とかき取り装置とを接触させることによる、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】
該取り除くことが、該ラクチドが重力の影響下で該表面から離れ落ちることにより行われる、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項５】
該方法が、ドラムフレーカー又はベルトフレーカーにより実施される、請求項１～４のいずれか１項に記載の方法。
【請求項６】
該方法、少なくとも該ラクチドと接触する部分が耐食性物質から作られているところの装置中で行われる、請求項１～５のいずれか１項に記載の方法。
【請求項７】
該方法が不活性ガス下又は乾燥雰囲気下で行われる、請求項１～６のいずれか１項に記載の方法。
【請求項８】
該得られたラクチド粒子がふるいにかけられる、請求項１～７のいずれか１項に記載の方法。
【請求項９】
１０００～１００００m^{-1}の単位体積当たりの表面積を有するラクチド粒子が得られ、語「安定な」が、該ラクチド粒子が空気中で２０℃で多くとも５ｍｅｑ／ｋｇの当初遊離酸含有量を有し且つ１０週の貯蔵後に遊離酸含有量がなお２０００ｍｅｑ／ｋｇより低い

ことを意味する、請求項１～８のいずれか１項に記載の方法。

【請求項１０】

該ラクチド粒子が、９５重量％超のラクチド、好ましくは９８．５重量％超のラクチド、最も好ましくは９９．５重量％超のラクチドを含む、請求項１～９のいずれか１項に記載の方法。

【請求項１１】

該ラクチド粒子中に存在する該ラクチドが、９５重量％超のＤ－ラクチド、好ましくは９８．５重量％超のＤ－ラクチド、最も好ましくは９９．５重量％超のＤ－ラクチドを含む、請求項１～１０のいずれか１項に記載の方法。

【請求項１２】

該ラクチド粒子中に存在する該ラクチドが、９５重量％超のＬ－ラクチド、好ましくは９８．５重量％超のＬ－ラクチド、最も好ましくは９９．５重量％超のＬ－ラクチドを含む、請求項１～１０のいずれか１項に記載の方法。

【請求項１３】

該ラクチド粒子が、２００ｐｐｍより少なく、好ましくは１００ｐｐｍより少なく、及び最も好ましくは５０ｐｐｍより少ない水含有量を有する、請求項１～１２のいずれか１項に記載の方法。

【請求項１４】

該ラクチド粒子が、１ｋｇラクチド当たり５０ミリ当量（ｍｅｑ／ｋｇ）より少なく、好ましくは２０ｍｅｑ／ｋｇより少なく、及び最も好ましくは０～１０ｍｅｑ／ｋｇである遊離乳酸含有量を有する、請求項１～１３のいずれか１項に記載の方法。

【請求項１５】

ポリ乳酸の製造の為の出発物質として、請求項１～１４のいずれか１項に記載の方法により得られたラクチド粒子を使用する方法。